

広島市植物公園 見どころ案内

遅咲きの野菊

(キク科)
各地に自生するアズリノジギク(白花)、オオシマノジギク(白花)、シマカンギク(黄花)などが見られます。

2018年12月15日

通巻第399号

展示会のご案内

- ◇ 展示資料館 1F(9/22~12/25)
特別企画展「バオバブ展」
- ◇ 展示温室(11/24~12/25)
クリスマス飾るフラワー展

クリスマス飾るフラワー展

(展示温室)

クリスマスベゴニア、クリスマスカクタスなど“クリスマス”の名前がついている植物やクリスマスをイメージできる植物を紹介しています。ポインセチアのツリーやクリスマスのクラフトは必見です。夜間開園中は電飾による装飾も行っています。

**熱帯スイレン
温室 12/20
再開館**

ウナズキ

ヒメフヨウ

(アオイ科)

熱帯アメリカ原産の常緑低木。ハイビスカスのなかまですが、花が垂れ下がり、花びらは完全には開きません。英名はスリーピング(眠れる)ハイビスカス。

ピンクボール (アオイ科)

マダガスカル原産の常緑花木。半球状の桃色の花序がぶら下がっています。アジサイの花に似ていますが、APGⅢ分類体系ではカカオやバオバブと同じアオイ科(250属以上の集まり)に分類されています。

ハンカチノキ (ヌマミズキ科)

中国原産。キウイフルーツ大の実が鈴なりです。果肉は硬く、えぐみが強いので食べられません(ヒヨドリなどは食べます)。5-6月頃に、ハンカチを広げたような白い花(ほう)をつけます。

シナアブラギリ

(トウダイグサ科)

中国原産のアブラギリのなかまです。名前の通り、種子から油(桐油)を採ることができます。古くは、油紙や番傘に重用されていましたが、今日では塗料として用いられています。

ヤツデ (ウコギ科)

葉が複数に裂けることから八つ手と呼ばれますが、実際は七つか九つに裂けることが多いです。白い花が咲き始めています。

ムクロジ (ムクロジ科)

飴色の果実がたくさん落ちています。手に取って振ると、中の種がカラカラと音を立てます。表面がベタベタするのは洗剤の成分サポニンを含んでいるためです。種子は羽子つきの羽の玉に使われます。

カリン (バラ科)

黄色い実が鈴なりです。

セイヨウヒイラギ (モチノキ科)

クリスマスといえば、ホーリー！トイレの裏にはモチノキの見本園があり、雌株には赤い実が付いています。

タギョウショウ・クロマツ (マツ科)

展示資料館前のマツの古葉とり(もみあげ)を行っています。正月を綺麗な状態で迎えるための風物詩です。日本庭園ではクロマツの雪吊りも楽しめます。

